

ウミギク *Spondylus sp.* の生殖腺予備調査

村越 正慶

1. 目的

ウミギクは可食部が多く、美味であるために食用にされるが、多産しない。沖縄本島では、北部の羽地内海（名護市仲尾次）でよく漁獲されるが、漁獲量は4～6月の一時期に、名護漁業協同組合の鮮魚市場に水揚げされる程度である。そこで、生産性が比較的高いとされる羽地内海での、本種の種苗生産による増殖の可能性を検討するために、生殖腺の予備調査を行なってみた。

2. 方法

昭和63年5月23日と26日に名護漁業協同組合で入手された個体について、生殖腺の外観からの観察と切開して卵の観察等を試みた。

3. 結果

5月23日の入手個体は5個体、5月26日は10個体であった。

殻長は7.4～8.6cm、殻高は9.3～11.0cm、殻のみの湿重量は112～191gの範囲であった。

本種のこの時期の雌雄判別は容易であった。生殖腺が赤味を帯びている個体は雌、乳白色に白味を帯びている個体は雄であった。

5月23日の5個体は雌4個体、雄1個体であった。雌の生殖腺を切開したところ、滲出した卵の卵径は65 μ mであった。微量の卵に、雄の生殖腺を切開して得た精子を加えたが、1時間後は発生の兆候がなく、2時間半後に極希に2分割する卵が観察された。5月25日に殻長94 μ m、殻高75～80 μ mの幼生が観察された。

5月26日に入手した10個体は5月27日に観察した。

結果は表1に示した。

表 1 生殖腺等観察結果

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
性別	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♂	♂	♂	♂
生殖腺外部観察結果	+++	+	+	+++	R	++	++	+++	+	++
軟体部重量 (g)	40.4	37.8	42.8	54.5	40.1	29.6	37.9	45.4	40.5	32.7

+++ : 良く肥厚、肥大している (弾力がある)。

++ : 肥厚、肥大は認められる (半弾力がある)。

+ : 扁平で、肥大は認められない (弾力がない)。

R : 雌雄は判別出来るが、扁平、萎縮様である。

10個体中6個体は雌で、その内2個体は良く生殖腺が発達していた。4個体が雄で、1個体は良好な生殖腺の発達が認められた。

軟体部重量は、前述の殻長、殻高の範囲で29.6~54.5 g (40.2 ± 6.5 g)であった。また、同材料の貝柱重量は、9.4~23.3 g (14.6 ± 4.3 g)であり、軟体部重量の約35%を占めた。

5月26日分は生殖腺の切開を27日に試みた。殆どが未発生卵であったが、媒精後2日目に殻長 $105 \mu\text{m}$ 、殻高 $88.5 \mu\text{m}$ の幼生が極微量出現した。

参考文献

- 里森 修・堀江康浩 1983. ウミギクの生態調査-II, 和歌山県水産増殖試験場報告, 14, 53-62.
- —— 1983. ウミギクの種苗生産試験-I, 同上誌, 14, 75-81.
- —— 1983. ウミギクの種苗生産試験及び生態調査, 同上誌, 15, 17-23.